

令和4年度 第1回沖縄県農政審議会 議事要旨

令和4年9月7日（水）10：00～12：00

議題 「新・沖縄21世紀農林水産業振興計画（案）」に係る諮問について
（全体概要、本文第1章～第2章）

- 「持続可能な農林水産業を目指す」では目標として弱いので「実現する」等の表現にすべきである。
- コールドチェーンと言っても作物ごとに適した温度は異なるし、また湿度も重要であると考えられる。さらには、その後消費地に着いた後どのような物流ルートでたどるかによっても変化することが予想されるため、その後のパターンもある程度想定した上でコールドチェーンを行う必要がある。
- 食品産業や観光産業とのミスマッチングは往々にして生産者と業者のコミュニケーション不足、生産現場の情報（栽培、原価、特徴、収穫見込みなど様々）を伝えられていないことによることが多いと思われるため、生産方法や状況の見える化の取組が必要である。
- 沖縄のホテルや観光業の方々に沖縄県産の食材を使っていただく上で大きな課題として、コストと安定、期間が問題だと感じている。そこで、安定はもちろんのこと、なるべく長期間出荷できるような品種改良、保存技術等の体制を整える必要がある。
- 国外への輸出促進を考えたときにそもそも海外のニーズに合ったものを沖縄があまり生産していない現状が見受けられる。むしろ最初から海外をターゲットにした作物を「開拓品目」と位置づけて、別の施策を打っても良いのではないか。
- 環境に配慮した持続可能な食材を調達するための予算を確保し、身近な学校給食から子供たちにその食品を活用した食事を提供することで教育にもつながるし、普及拡大にもつながると思う。

- 今後の就農人口を考えた時に新規就農者を増やすことは必要だと感じるが、たくさんの人に支援をするというよりは、将来的に沖縄の農業に貢献してくれそうな人に重点的に施策を打つ方が投資対効果が高いように思う。
- 強い経営体づくりでは、農業協同組合が果たす役割はとても大きいと思うが、法人化している組織なども巻き込んでより強靱な経営体を作る必要があると思うため、他にも関連する団体を記載した方がよい。
- 牛乳と卵は鮮度が非常に重要で、できるだけ県内で生産するべきと思う。鶏卵については、GPセンターや食鳥処理施設をどうするかという流通加工施設の整備が重要であるため、どこかに記載する必要があると思う。
- おきなわブランドの確立が、品質と生産供給体制に重きが置かれているが、ブランドと「プロモーション」は両輪であり、ぜひともプロモーションに力を入れる方針を示して欲しい。
- 新規参入者や若者に希望を与える農林水産業の未来について、「儲かる」「楽（ラク、たのしい）」「新しい」農林水産業の未来を描ける表現が欲しい。
- 新規就農者支援では国だけの支援ではこれまで同等の支援が出来ないので、安心して就農できる対策を示す必要がある。
- 分蜜糖工場は老朽化しており新設する必要があるが、国の支援に加えて、県の財政支援をお願いしたい。
- 農業は地域経済を支えているので、重要性を沖縄県全体に認識してもらいたい
- 卸売市場での貯蔵機能のあるストックポイントが必要である。
- 6次産業化ではみんなが使える共同の加工施設のようなハード支援、パッケージのやり方や販売方法などのソフト面の支援の整備が必要である。
- 輸送コストについて離島から沖縄本島に出す際の支援もおこなってほしい。

○リュウキュウマツの大型乾燥施設が必要である。

○石垣島での土地改良事業について、県の事業を進めてほしい。

以 上